

広 報

ふじがわ

4 月 号 昭和58年 4 月20日 発行

No. 2 6 1

町 の メ モ

昭和58年 4 月 1 日現在	
人 口	16,960人
増 減	- 32人
男	8,375人
女	8,535人
世帯数	4,319世帯
面 積	31.09km ²

富士川町 総務課



町の今年の目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

新装オープン

5月2日から診療開始

(表紙のことばは2ページに)

経費の節減合理化に努め うるおいのある町づくりを目指して

一般会計は 25億2,500万円 でスタート

町議会の3月定例会は、3月9日から開かれ、昭和58年度一般会計をはじめ十八議案を審議、すべて原案どおり可決し、3月18日に閉会しました。この内容については広報「ふじかわ」3月号で一般行政報告を中心の紹介にとどめましたので、今月は昭和58年度の重点施策と、これを反映した一般会計予算を中心に「私たちの町の台所」を紹介することにしました。

58年度の重点施策

常葉町長は、昭和58年度の重点施策に入る前に、これを反映させるための昭和58年度の予算編成については——国・県の予算編成方針や編成状況をふまえ

- 1、経費の節減合理化に努め、特に消費的経費については、前年度額以下に圧縮する。
- 2、限られた財源の中で公共事業は、その緊急性を配慮しながら、重点的、効果的な投資を行う
- 3、時代の要請に即応して、行政の役割を見直すことによる職員の削減と新規行政需要に対する職員の増を抑制する。
- 4、公共料金などの適正化をはかり、費用負担の確保に努める。

などを基本方針として行い、予算規模は一般会計が二十五億二千五百万円、特別会計が十億二千六百六十八万円となり、昭和57年度予算に比べて一般会計では六千三百万円、二・六割の伸びとなっております——と語りました。

また同定例会で、3月28日に任期満了となる選挙管理委員—小野日央氏（上町）田中又吉氏（本通り三）太田秋房氏（小山）宇佐美孝氏（大北町）同補充員—影島寿恵雄氏（南町一）望月保氏（旭町）芦沢鈴氏（本通り二）若月義一氏（堺町）の選出と、町立幼稚園の授業料が58年度から五千円（旧四千円）に改定されました。

各種学級の推進をはかると同時に、施設の維持管理や積極的な行政を進めるために庵原郡環境衛生組合負担金を大幅に増加しました

◎潤いのある町づくり
住民要望の多い施設の維持改良

町道上町—小山線、新町都市下水道などの大型継続事業を中心とした予算化をしております。また安全な町づくりを推進するために、がけ地や河川の防災工事、庵原地区消防組合負担金、地震対策関連事業として耐震性防火貯水槽、自主防災資器材の整備や組織の育成強化、加えて小学校の耐震補強工事などの公共施設の防災工事など幅広い予算化をしております。

◎豊かな町民生活を支える農林業振興のための農林業基盤整備では

豊かな生活の町を目指す農林業振興のための農林業基盤整備では、農免農道や用排水路、林道の予算

共立蒲原総合病院の移転改築は中之郷大栗窪地先に建築を進めてきましたが、5月1日に開院することになりました。成人の保険事業、成人病集団検診、地域健康づくりの中核施設として医療水準を高めていきます。また自然とのふれあいを求めた野田山保健休養林造成工事、側溝や甲蓋工事の計画的な推進を行う一方で、青少年育成

新紙の「ふじ」

新共立蒲原総合病院は、当町の大栗窪に昭和56年12月から、総事業費四十六億七千万円で造成工事や建築工事を進めてきましたが、4月11日に関係者約三百五十人の出席のもとに落成式を行いました。同病院は5月1日から開院しますが、診療は5月2日から開始となります。

診療科目は、内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、理学療法科と、休診していた耳鼻咽喉科が再開され、十二科が予定されています。そしてこれらの診療部門は、すべて一階に配置されています。

診療受付時間は、平日・土曜日とも午前8時15分から11時30分までです。また病院までの交通手段として、富士急行と山梨交通が仮称「病院前」を設置し、一日三十一便を予定していますが、タクシーも乗入れします。さらにマイカー利用者のみなさんには百五十台収容できる駐車場もあります。

昭和58年度一般会計予算

◆ 歳入・歳出

総額	25億 2,500万円	構成比%
----	-------------	------

◆ 歳入

町税	12億 5,633万7千円	49.7
国庫支出金	2億 2,731万5千円	13.0
地方交付税	715万7千円	12.2
県支出金	433万5千円	8.1
その他	4億 2,985万6千円	17.0

◆ 歳出

土木費	4億 5,468万3千円	18.0
衛生費	4億 1,717万円	15.8
教育費	3億 8,536万2千円	15.3
総務費	3億 6,342万7千円	14.4
農林水産費	3億 2,434万8千円	12.8
民生費	2億 771万2千円	8.2
消防費	1億 5,427万円	6.1
公債費	1億 5,361万円	6.1
その他	8,141万8千円	3.3

自主財源は62・7%で

まず、一般会計予算の中味を歳入からみてみましょう。みなさんや事業所から納められる町税（町民税・固定資産税・軽自動車税・町たばこ消費税・電気税・木材引取税・特別土地保有税など）は、前年度の当初比較で、八・二割の伸びの十二億五千六百三十三万円を計上しました。国・県支出金は、町で行う事業に対する国・県の補助で、今年度は町道上町—小山線改良工事を主体に、前年度の当初比較で一・六割増の五億三千六百五十五万円と

化、また商工業については、商工業に果たす役割の大きい商工業委託金の増額や中小企業に対する振興費などを予算化しています。◎コミュニティづくり
コミュニティ施設としての地区公民館建設補助金、第一幼稚園裏

山にあたる第一公園整備事業、富士川緑地事業負担金など施設づくりを計画的に進めるための予算化をしました。

また社会教育については文化財調査費などコミュニティの拡大をはかっています。また社会教育については文化財調査費などコミュニティの拡大をはかっています。

総務費へ

三億六千三百四十二万円

民生費へ

二億七百七十一万円

衛生費へ

四億十七万円

歳出では土木費がトップ

それでは歳出に移ることにしましょう。まず事業を中心に紹介します。

◎富士川町社会福祉協議会事業補助金へ
一千三十六万円

◎児童措置費へ
四百五十万円

基本積立金へ

一千九百五十六万円

国民健康保険特別会計繰出金へ

一千三十三万円

老人福祉センター・老人憩いの家・簡易老人憩いの家管理費へ

九百七十九万円

参議院・県議会・町議会議員選挙執行費

九百七十九万円

共立蒲原総合病院組合負担金へ

一億三千二百二十万円

庵原郡環境衛生組合負担金へ

一億一千九百九十二万円

中野宅造内主道路埋設下水管布設工事委託料外へ

七十三万円

蒲原町外二町隔離病舎組合負担金へ

六百三十九万円

庵原地区救急医療対策協議会負担金へ

六百三十九万円

公害関係分析委託料へ

六十九万円

町職員の異動
4月1日付で町の職員の異動が次のとおり行われました

◆課長
(新職) 氏名 (旧職)
民生課 池谷熊夫 環境課・衛生課
環境衛生課 林 勝 水道課
水道課 谷津倉章夫 水道課
議会事務局 太田国弘 議会事務局
民生課 深沢尊明 教育課
教育課 平岩康夫 税務課

◆係長
総務課 佐野静雄 民生課
管検課 山下和子 総務課
民生課 小林延江 総務課
水道課 渡辺教章 総務課
教育課 天野 明 民生課

◆主査
総務課 曾我 進 水道課
総務課 近田 弘 教育課
管検課 芦川潤一郎 建設課
民生課 谷津倉功 管検課
環境課 清喜久江 税務課
建設課 松下寿男 管検課
議事局 佐野百合子 管検課
教育課 若月正己 総務課

◆主事
総務課 田村百合子 民生課
総務課 浜村公子 出納室
総務課 簗 恒男 教育課
産振課 鈴木章司 建設課
管検課 望月 亘 民生課
管検課 斉藤哲司 建設課
税務課 田村絹枝 総務課
税務課 宇佐美美朱 総務課
建設課 森 佑司 建設課
建設課 鈴木治朗 議事局
出納室 望月規江 議事局
水道課 惣野代隆 産振課
第一小学校 遠藤美恵子 民生課

◆幼稚園教諭
一 村野照子 第一小
一 馬野茂美 二 幼
一 小林美郷 松千代保
二 幼 深沢優子 一 幼

◆保育園保母
松千代保 上野孝子 本通保

◆児童館厚生員
宇多利児館 浦田みさえ 学校給食センター

◆用務員
老人憩の家 浦野幸子 学校給食センター

◆県への派遣
静岡土木 静岡土木 管検課
事務所 佐藤 博 管検課

◆県からの派遣
建設課主幹 山梨重治 中部農林事務所

◆新採用
税務課 浦田盛之
環境課 望月信洋
民生課 中村眞弓

◆県からの派遣解除
県営繕課 和田光生 建設課

◆退職(3月31日付)
総務課付参事 渡辺 勝
宇多利児館厚生員 浦田次子
老人憩の家用務員 前田 秀
環境課付清掃員 佐藤富男
二 中用務員 村野みゑ子
一 幼 教諭 亀 香代子



昭和58年度予算審議中

億六千六十二万円となっていて、総支出額の約七九割を占めています。その他、総務費が一億五千五百五十万円、老人保健拠出金が七千五百五十一万円などとなっています。このように国保会計は医療費が中心で、医療費が増えれば、当然国の補助金も増加しますが、一方

みなさんが負担する保険料も上げなければならぬことになるわけです。本年度も医療費の増加傾向が引続くものと考えられますのでみなさんも医療費の歯止めにご協力ください。

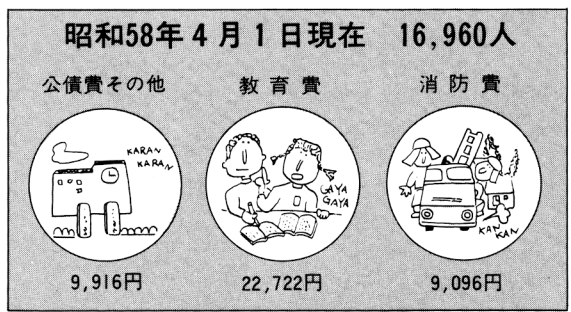
つぎに水道事業会計です。この会計は、収益的収支勘定と資本的収益勘定の二つに分かれています。先に収益的収支勘定からみると、収入が一億四千二百二十七万円、支出が一億一千五百十六万円となっています。この収入は主にみなさんから納められる水道使用料金であり、支出は人件費や動力費、修繕費、減価償却費、支払利息などがあります。一方、資本的収支

勘定では収入が六千三百八十八万円、支出が九千七百四十三万円となっています。この収入は県・町からの負担金や補助金であり、支出は県企業局による富士川住宅団地の配水管布設工事や吉津浄水場改良工事などが主なものですが、以上のように水道事業会計は、みなさんから納められた水道使用料金で建設改良費や職員の人件費施設の維持管理費、借入金の返済などをまかない、一般の企業と同じ独立採算制をとっていますので、みなさんのご協力をお願いします。

つづいて土地取得特別会計をみると、歳入、歳出ともに五千九百

五十六万円となっています。この予算は予想される公共事業に対して公共用地を先行取得するために計上されています。

最後に老人保健特別会計をみると、歳入歳出の総額は二億九千八百二十万円となっています。歳入は法に示された負担割合により、支出基金交付金二億九百万円、国庫支出金五千九百四十六万円、県支出金一千四百八十六万円などとなっています。昨年度からできたこの会計は高齢化社会に備えてお年寄りの病氣から治療までを総合的に行うものです。しかし当面は、七〇歳以上の医療給付が中心となります。



農林水産費へ
三億二千四百三十四万円

- ◎農免農道外農業基盤整備事業へ 一億三千七百六十一万円
- ◎林道開設事業・野田山保健休養林造成・間伐作業道開設工事へ 一億二千六百四十九万円
- ◎土地改良農道工事元利補給へ 一千六百三十二万円

商工費へ
一千七百四十九万円

- ◎県信用保証協会貸付金へ 一千万円

土木費へ
四億五千四百六十八万円

- ◎道路維持道路新設改良事業へ 二億六千五百万円
- ◎都市計画事業へ 六千六百九十五万円
- ◎公園事業へ 三千七百万円
- ◎河川防災維持事業へ 八百四十万円
- ◎県単道路改良工事負担金へ 五百七十五万円
- ◎橋梁事業へ 三百五十万円

消防費へ
一億五千四百二十七万円

- ◎庵原地区消防組合負担金へ 一億五百七十五万円
- ◎消防施設整備事業へ

◎地震対策費へ 九百七十八万円

教育費へ
三億八千五百三十六万円

- ◎小学校施設整備事業へ 八百九十万円
- ◎第一小学校管理費へ 二千二百八十一万円
- ◎第二小学校管理費へ 一千七百七十七万円
- ◎第一小学校耐震補強工事へ 七千七百六十一万円
- ◎中学校施設整備事業へ 一千三百三十六万円
- ◎第一中学校管理費へ 二千九百五十八万円
- ◎第二中学校管理費へ 一千六百万円
- ◎第一幼稚園管理費へ 二千二百六十八万円
- ◎第二幼稚園管理費へ 一千八百五十一万円
- ◎地区公民館建設費補助金へ 六百万円

つぎに、歳出を性質別人件費・物件費・投資的経費・その他繰入金・公債費など)に分けてみてみましょう。

人件費の総額は六億二千二十九万円と、前年度に比べて五・四割減少しています。この減少の原因は、前年度人事院勧告が凍結され

たことと、本年度給与改定にともなう増加分を計上していないことなどがあります。人件費が歳出予算に占める割合も前年度が二六・六割に對し、本年度は二四・六割と二割減となっています。

物件費の総額は七億九千六百九十八万円と、前年度に比べて一割の増となっています。これは一部事務組合負担金特に共立蒲原総合病院組合負担金増が影響しています。

ここでは四つの特別会計(国民健康保険・水道事業・土地取得・老人保健)について概要を説明します。

まず国民健康保険特別会計をみると、総額で四億五千六百三十一万円となっています。

収入で最も多いのは国庫支出金で二億四千二百三十一万円、総収入の約五三割を占めます。またこれを国保加入世帯の一世帯当りで見ると約十萬五千二百十七円にもなり、国保会計の大きな財源となっていることがわかります。

ここで、私たちが納める国民健康保険税はどれくらいを見込んでいくのでしょうか。これについては、一億八千七百九十五万円と、国保加入者一人当りにすると三萬九千二百五十八円をみなさんが納めることとなります。さらに、これを前年度の本算定と比較すると、約九割の引上げとなります。その他の収入には、一般会計からの繰入金一千万円、前年度からの繰越金一千万円などがあります。

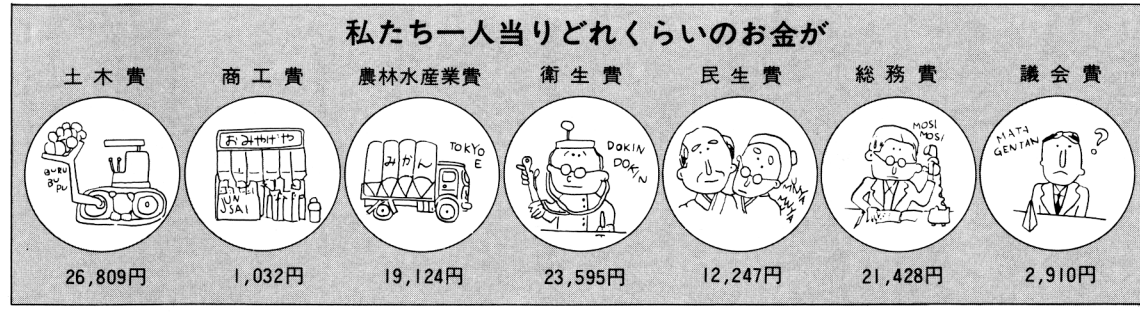
では支出をみることにします。支出では保険給付費がトップで三

歳出を性質別に

公債費・その他 2億1,569万5千円 (8.5%)	人件費 6億2,029万7千円 (24.6%)	物件費 7億9,698万2千円 (31.6%)	投資的経費 8億9,202万6千円 (35.3%)
----------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

()は構成比

四つの特別会計



今月のテーマ

広報デイスカッション

私の旅日記

相生町 加藤愛子(64)

最近旅行好きが大へん多いようですが、私もその一人です。それは旅行によっていろいろの楽しみが味えるからです。まず、出発までの待つ楽しみ。目的地での見物もさることながら、旅にはつきものの土産物です。買っても買わなくても土産物屋をのぞくのが楽しく、思いがけなく珍しい物を見つけた時はうれいすね。土産物といえば四十余年前、父が九州から博多帯を買って来てくれました。今でも箆笥の底に眠っています。

すが、父の唯一の土産物に思いを新にします。

そして旅が終われば、たまには反省会など開いたりします。けれども私の本当の楽しみは旅日記をつけることです。まだ記憶の褪めないうちに、ノートに書いて後日折にふれ旅先の思い出にひたることにします。また旅は人と人との触れ合いの場でもあります。全く見ず知らずの他人と行動を共にすることもありますが、旅を縁として親しくなれるから不思議ですね。私たちは旅の楽しみを倍増させるた



提言者
岩崎袈裟治さん

「紅の林の中に貴女の顔 想い出させる 髻梯の旅」
友人の女房より。

「オイ」旅行は足腰の丈夫な時に行け、弱くなったら伴われて行かぬぞ、と言われて何年か前から旅

に出る機会が多くなったことは事実である。数えてみれば、小旅行を含め数多く参加している。根が酒好きなので、旅は面白く、楽しくと思う。また、主婦のみなさんが三度の食事労働から解放され、体を休養させることができるのも旅である。

しさと、旅行中の出来事はもちろん、帰ってからの語り合い、想い出話に花を咲かせ、また次の旅行プランと、残り少ない人生に旅は生甲斐と思ふ。それぞれの持場を守り、体大切に、さあみなさん東に西に旅へ出掛けよう。

「幾山河 越えさりゆかばさ びしきの はてなむ口ぞ 今も旅行く」(牧水)

五月のテーマ
こうしたら
楽しい広報に

今月号から広報担当者が、近田弘君にバトンタッチされました。そこで、この機会に、より「層町民参加の楽しい広報「ふじかわ」にするため、今までの広報をみなさんにクリニックしてもらいたいと思います。みなさん、広報がこうしたらもっと読みやすくなるのでは、また、こんな企画で紙面作りをというご意見やご要望を聞かせてください。

投稿者へ

- ◎5月のテーマ
こうしたら楽しい広報に
- ◎字数
四百字づつ原稿用紙一枚以内
- ◎締切り日
5月9日(月)まで
- ◎投稿先
富士川町役場、総務課
- ◎注意事項
住所・氏名・年齢記載のこと

変えるほど魅力のあるもの。ローマ、コロシアムの露店で買った燭台に灯を点すとき、慌しく過ごした、うるわしき日々が、ほのぼのと甦える。

四十九町 辻すみじさん(81)

「等覚寺」の開祖・日位上人の祖母は、大へん日蓮上人を尊敬しておられ、お盆には米と塩・野菜を身延山におられる上人に献上していたそうです。上人は大変お喜びになり、お礼としてお手紙を日位上人に渡され、後にそれが盂蘭御書といわれるようになったそうです。現在、この御書は京都博物館で国宝となっています。一昨年、これを拝見する機会を得ましたが、紙も文字も美しいものでした。

また、本年2月には比叡山定光院を参拝しました。ここは日蓮上人が修業された所で、うっそうと茂る木立、静かで淋しい感じがしました。道幅も狭く、石がゴロゴロしている坂道——私は腰が痛いのので近所の人の助けを得、落伍者にもならずすみしました。そして大津のホテルに一泊し、翌日、石山寺に詣で、瀬田の「から橋」を渡り近江市の村雲御所に参拝、この日は稀に見る雪景色でした。

新町 渡辺 清さん(74)

旅をした後で、こんな手紙がきます。清水の退職した校長Sさんより「先生過日は紅葉の裏警備め

ぐり、実に楽しい旅行でしたね。特に東山のホテルの一夜は最高でした。予想しなかった肖像画を、先生の達筆で見事に描いてくださった、何にも優る記念品で、ほんとに嬉しかったです。家に帰って家内にも喜んでもらい、子どもや孫たちも一目見て「やお爺いちゃんだ! お爺いちゃんだ」と大騒ぎして喜んでくれました。……後略。また京都の木村千代子さんから、おかげさまで本当に楽しい旅をさせていただきました。先生に色紙をいただいたり、またすてきな山水画を見ていただいて買ったこと。楽しそうに宿の娘さんと踊られたお姿など思うとか、本当によい方との出会いを台湾旅行でさせていただきました。……後略。一昨日京都御所の庭で同行の増井冬木さんが、蕾のついたしだれ桜の小枝をそと私に見せて「春の旅花盗人となりけり」……旅は色々な出来事や人との出会いがあつて楽しいものです。

南町一 池内初代さん(80)

思えばあれからもう十年余りの歳月が過ぎたのです。高三の夏休み、私は機会があつて女性ばかり十五、六人の団体が北海道旅行をすることが出来ました。

敦賀から日本海をフェリーで北上し、翌日小樽港に着き、道内はバスで回りました。神秘的な摩周

めにも足を大いに鍛えましょう。月日が過ぎるのは早いもので、今はなつかしい娘時代に、仲の良い友だちとよく旅に出かけたものです。警備山の雄大な風景、五色沼の鮮やかな水の色、尾瀬沼の目にしみる水芭蕉の白、知らない土地で味つた人の心の暖かさ。みんな楽しい思い出です。旅の魅力は日ごろ見慣れている草花の緑や鳥の声も新鮮に感じられ心が洗われることです。日常生活から解放されて知らない土地に出かける旅は何日も前から気持ちちはずみみす。時刻表を調べたり、着替えなどの荷作り、忘れものは? とあわただしく出かけ、目的地について期待はずれと失望する時もありますが、不思議なことに未知への希望と期待にまた旅に出かけたたく

なります。今は育児や家事に毎日を追われ、のんびりした旅はなかなかできませんが、子供たちが大きくなるにつれ、あそこにも行って見たい、こんな所にも行きたいと胸がふくらみます。人生こそ旅そのものではないでしょうか。野も山も花の香りがあふれています。今年はどうな旅にめぐり会えるでしょう。

上町 久保田芳恵さん(64)

55年9月下旬、ヨーロッパ旅行の夢が実現した。道連れは、夫、兄妹、従弟の八人。加えて日本各地からやって来た二〇代の若者たち、オランダを皮切りに、七カ国を旅する内に、気心も知れ、いい仲間になった。アンネの隠れ住んだ赤煉瓦の街角、雨に濡れたロンドン塔、トレッドへ向う車窓から見た赤土の大地、地の果てまで続くとと思われる広大な田園風景、豪華絢爛の一語につけるベルサイユ宮殿、見る物聞く物、感激の連続だった。

フラメンコの激しいリズムに引き込まれて花を投げ、世界の旅人と手をつないで踊ったギリシャのデイナーショー、あの時、舞台上に上がり熱狂的に踊りまくった岐阜の娘さんから後日、エメールが舞い込んだ。フラメンコに魅せられて、目下スペインに留学中であるという。旅とは、人の生き方も

湖、伝説の湖阿寒湖、夜の襟裳峠で見た灯台の灯、原生花園、真夏だというのに霧でまっ暗になり寒くて震えた知床の海。とつてもおもしろかったポテトやトウモロコシ。牧場では馬の背に乗せてもらい、どこまでも続く大草原の中へは思いきり走り回って、雄大な北海道の自然の息吹を体で感じることもできました。

そして、あつという間だった八日間の旅行の最後の日「さようなら、また北海道に来てね——」
「すてきな思い出をたくさんありがとう——」 みな眼の中に涙をいっぱいためていつまでもガイドさんと別れを惜しんだのです。

富士松野 北村シメ子さん(80)

年二回の会社の旅行で、旅は道連れの素晴らしい味い自分一人の胸にしまっておくのが、もったいなくベンを取りました。私達は五人のグループで、紀伊、勝浦の方へ夜立ちの一泊二日で出かけました。初めて見る景色に目を見はる私たちに、同じバスに同乗した五人のおじ様と知り合いになり、

宿が取れずこまっている話をきいて気のどくに思い、二部屋取つてある一部屋を分けてやりました

ら、一泊出来た事を喜んで食事も次の日の日程も「知り合ったのも何かの縁」と、言つて付き合ってくれました。帰りの車中でお礼にまたいつか会いましょうと、別れました。暮れの30日に電話があり、1月末に伊東に招待してくれることと、私たちはずうずうしく出かけました。このおじ様たちは東京の私鉄交通の役員さんで、今では家族ぐるみの付き合いになり始めました。昔の人が言つた「旅は道づれ」本当に楽しく人との出会いのすばらしさを感じているところです。

大北町 松下国子さん(44)

私は機会に恵まれ二度北海道に旅をしました。一度は冬、一度は夏でした。この季節を異にした二度の旅は、それぞれ別の感動を私に与えてくれました。オホーツクの流水は、立っている足元から遙か遠くの方まで続きます。その壮大な眺めに私は息することもない、思わず身振りするほどの感動を味わいました。夏の旅はまたさわやかで、朝カッコウの鳴く声で目覚め、窓を開けると、ヒヤッとした空気が流れ込み、窓の外の樹木林を撫で渡る風の音も、自然を称える調べに聞こえます。赤い花びらを風にまかせて咲き乱れる浜なすの甘酸っぱい香りの漂う野付崎も忘れることが出来ません。こう

した大自然の中に一歩踏み込むとその尊さの重みをグッと感じ、それを愛する気持は心新たになるものの、自分の日常生活にその感情を持続し、定着することは何とむずかしいことでしょうか。旅の喜びを増すためにも自然を大切にしたいと願うものです。

本通り四 丸橋成太さん(47)

「旅」何んと快く甘く心をゆきぶり、淡い寂寞と期待をかきたてる言葉だろう。私の旅は二人旅お天気まかせである。むろん、この次はどこへ、と綿密な計画を立ててはいるが、ある日の朝「おい、新婚旅行に行こうか」とかみさんを単車の後へ乗せてわが家を飛びたつ。洗面用具や着替の他に、宿泊先への土産も忘れないようにして、一泊二日で二人分の総予算一万五千円のささやかな「旅」の始まりである。

私にとって「旅」は、人の守ることも忘れられた神社仏閣や祠に案内して、古い歴史を話してくれるときに、体の疲れを癒やす鉱泉や酒などと人情を用意して待ってくれる。そして、その想い出がもうずっと遠い昔のことのように重なり合つて、いつまでも心を暖めてくれる。春うらら、またぞろ「旅」が、次の新婚旅行は? と誘いかける。「旅」は、二人の友だちなのである。

ママさん記者が取材中

「松野地区 生徒指導対策協議会」

校だよりがちらほらと聞かれるようになり、4月4日、新学期の準備で忙しい富士川第二中学校を訪ね、斎藤和幸校長先生から、同校に事務局を置き、松野地区に新しく出きました「松野地区生徒指導対策協議会」について、話をうかがいました。

いつもですと、モニター二人と担当の若月さんだけなのですが、今回の取材は、やはり母親として大いに関心があることなので、五人のモニターと新しく広報担当になりました近田さんの七人で、おじゃましました。そして、第二中学校からは、この協議会設立の提案者であります同校PTAの前会長杉山好明さんも、同席してくれました。この会が設立された理由は、最近生活環境などの変化により、非行の低年齢化が問題となつていますが、地域の人たちが地域に密着した連携や指導などを発揮し、松野の子どもたちを非行から

守り、健全な青少年の育成をはかるためにと、昨年の12月に結成されました。

同会は会長、望月好徳氏、副会長に同校のPTA会長、理事十五人には、松野地区の町議会議員、区長、民生委員、身近な中学生を主体に指導していく、ということと、5月ごろには、総会を開催し、本格的な活動を展開していきます。

活動の原案は「よい家庭の紹介」などを町の広報紙やポスター、のぼり、横断幕などをつくり啓蒙活動を進めるということと、地区の子どもを知るということと、地区の館に、地区の中学生の名前を掲示する、明るい家庭のアピールなどをあげています。

最後に、松野の子どもたちは、まだまだ、明るく素直で、純粋な心を持っています。先日の卒業式でもいまま新聞紙上で騒がれているようなことはなにもなく、その様子を見ていて私達は感激しましたと、語ってくれました。

短い時間の取材でしたが、同協議会・教育委員・社会教育委員・婦人会・青年団・青少年健全育成委員・更生保護婦人会・小中学校PTAのみなさんや、また警察、同協働員によつて構成され、事務局は第二中学校に置き、同地区の保護司さんが、オペレーターとして参加しているそうです。



中央斎藤二中校長・中央右杉山前PTA会長を囲んでインタビューするモニター

青少年健全育成の会は、多くありますが、非行問題は、学校と父母、地域の人たちが一体となって取り組まなければ解決できない、悪くなつてからでは遅く、その前に何かしなければという気持を持つ活動していくことが必要です。

次代を担う松野の子どもたちを、地域の人たちがみんなで守り、地域の中から良くしていく、良くないことを自分のところから出さないという考えをみんなが持ち、まず私たちが「今の子どもたちは……」という前に、その子どもたちを育てる親の一人として「何かしなければ……」と強く感じながら、帰路につきました。

広報モニター 天野恵美子

社会教育の自立

地域を動かす青少年の育成

これまでも広報「ふじかわ」のこの場を拝借して、青少年をとりまく諸問題について提言を試みてきたが、ただ提言のみに終始したのでは社会教育の責務を果たすことにはならない。しからに本年は、先年度来の提言を具体化するために精力的な事業展開をしていかねばならないと考えている。

その手始めとして、教育委員会事務局では次の事項に着目し総合的な角度から青少年健全育成の基盤を構成していきたい

①各校PTAとの連携を密にする

具体的な活動を通して単P相互が同一視点に立ち、組織的な充実をはかる。そのために、各PTAに委託要請した家庭教育協議会の定着と健全育成推進連絡協議会の活動については、その方向性を明確にしていきたい。

②地域の教育力の養成

地域総合教室をモデルケースとして開設する中から、青少年問題について地域の人々の意識変革を促し、この波紋が地域全体の教育力として発展していくことを願うものである。

③家庭の日が持つ意義を町民に周知徹底させるための啓蒙

毎月第三日曜日は家庭のために還元する日として、そのあり方について見直しをしてみる必要がある。このことについては、後日具体的な家庭づくりの計画表を提示していきたいが、ともあれ青少年の育成については、家庭を含んだ地域ぐるみの思考の中から模索していこうとするものである。

④地区青年団の結成と青年学級の開講

これからの地域を動かすエネルギーは、青年層をぬきにしては考えることはできない。一時、停滞ぎみであった青年団活動も昨年度あたりから復活のきざしがみられ、次第に地域を動かす力を備えてきた。すでにある地区では区独自の青年団結成の動きがみられることは好ましいことである。一方、青年学級の開講も企画しており、この機会を通して町の青少年育成土壌をより豊かにしていきたいものである。

以上四点を力点に設定し、地域を動かす力として、青少年の力を養成することが、地域を変えていくことにはほほいしないだろうか。

郷土の若人ガンバレ



野田 力三氏

野田育英奨学基金は昭和55年当町出身で野田合板株式会社社長野田力三氏からの二千万円の篤志によつて設立されましたが、今年さらに同氏から一千万円の寄付がありましたので、同基金設立の動機などについて話をうかがいました。

同氏は「富士川町は私と会社の出生地であり、同時に私が育まれ、会社も発展の基礎を築いた拠点である。従つて、私と富士川町との関係は親子のように断ち切ることができない絆で結ばれている。」

昭和34年に、五十四年間住みついた富士川町から転居を余儀なく



されたが、その後折あるごとに郷里を訪れる私は、余所にはない感慨と安らぎを覚えるのである。

昭和55年8月、私は私と会社のために尽くしてくれた家内に先き立たれた。亡妻は私の父祖の菩提と共に宗清寺に祀られている。私も、やがては亡妻と同じように宗清寺のある富士川町へ帰還することになるであろう。

「野田育英奨学基金」を創設したのは、家内が他界した翌月であった。私と私の事業を育てくれた郷里への報恩と、亡妻の遺徳を偲んで設けたものである。

私にもかつて郷里における楽しい青春の思い出がある。未来を背負う郷土の若人が逞しく健全に育つて欲しいというのが、同基金の趣旨であり、故郷を愛してやまない私の切なる願いでもある」と町の青少年への期待を語っています。

(同基金の問い合わせは教育委員会へ)

めい福をお祈りします。

郷土が生んだ偉大な政治家の功績をたたえ、心からつつしんでご

佐藤虎次郎氏逝去



故 佐藤虎次郎氏

「虎さん」の愛称で、みなさんに親しまれてきました佐藤虎次郎氏が、去る3月27日逝去されました。

佐藤氏は、明治35年当町の木島に生まれ、昭和10年に三三歳の若さで沼津市会議員に当選して以来、同市議三期、衆議院議員通算五期、清水市長連続三期等歴任しました。

町では、同氏の永年の功績に対し、昭和45年6月富士川町名誉町民としての称号を贈りました。

郷土が生んだ偉大な政治家の功績をたたえ、心からつつしんでご

資料・東海地震

富士川断層に地震が起きた

東大地震研 恒石幸正

富士山には、最近ほとんど地震が起きていません。でも、富士山の西側を通る富士川断層にそつては、たまに小さな地震が発生するようです。富士川断層は安政の東海地震を起こした断層ですが、いまでも活きている証拠なのでしょう。

東大地震研の宮崎務氏が、昭和44年の8月から9月にかけて、本栖中学校を基地に地震の臨時観測を行っていました。9月20日の18時15分ごろ、マグニチュード三・七の地震が発生しました。連続観測中だったので、前震1個と余震16個の震源を決めることができました。図はその位置を示しています。

各地の観測所に最初に到達した地震波が、押し波であったか引き波であったかによって、断層がどんな向きに運動したかが分かります。この方法によって、地震は左横すべり断層運動により発生したと推定されました。地震学的に求められる富士川断層の動きも左横

